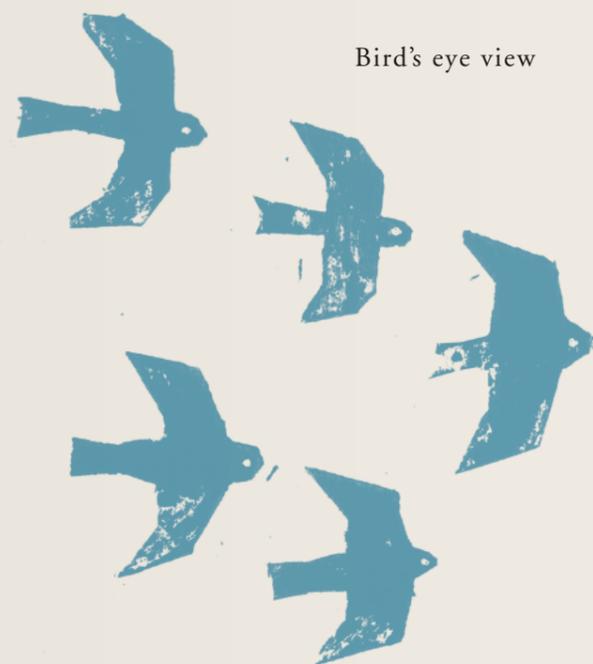


高校生と新入学生のための  
食料環境経済学科ガイドブック

# 俯瞰

する

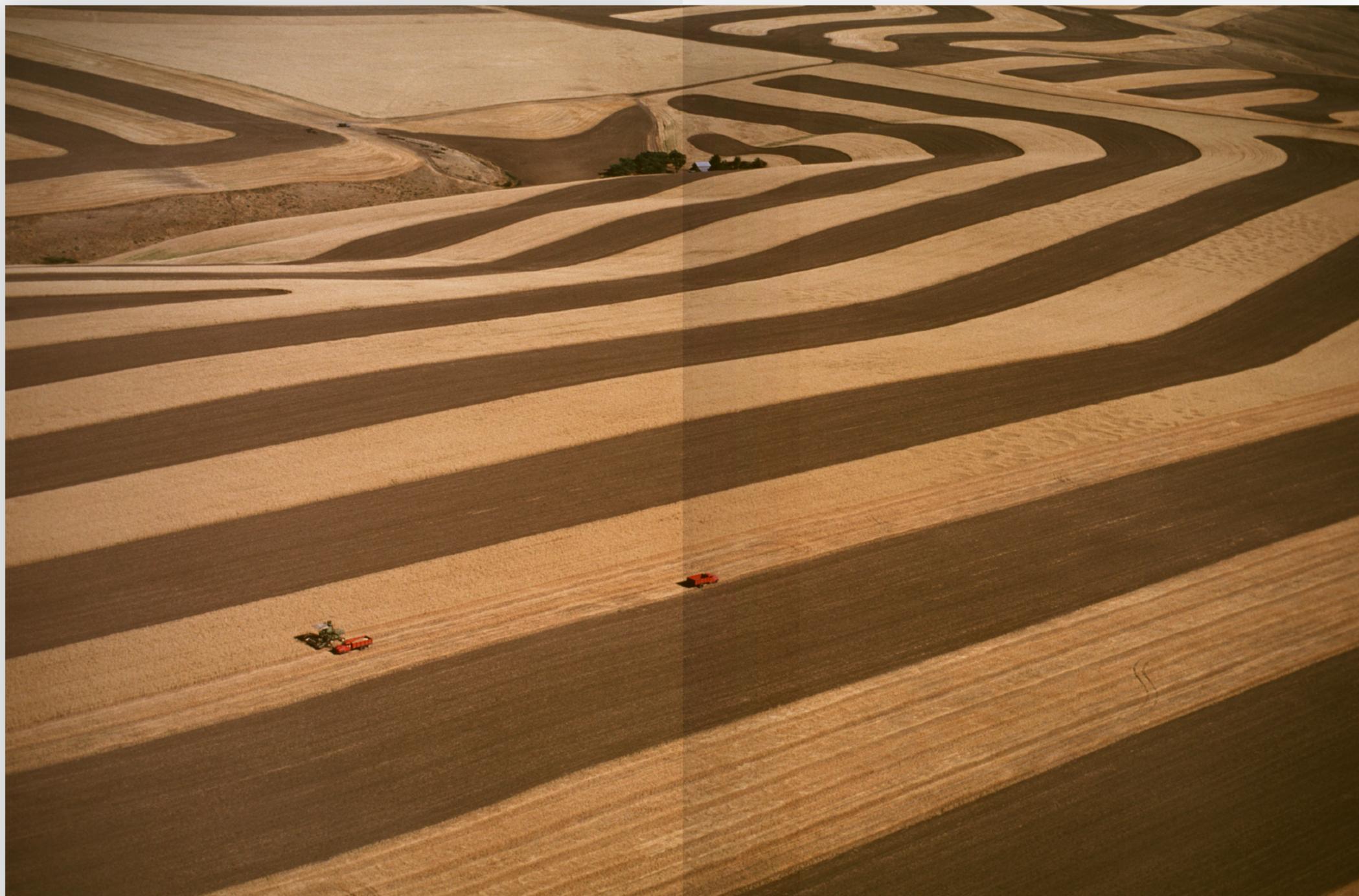
Bird's eye view



高校生と新入学生のための  
食料環境経済学科ガイドブック



高校生と新入学生のための  
食料環境経済学科ガイドブック



これからますます日本は **多様化** します

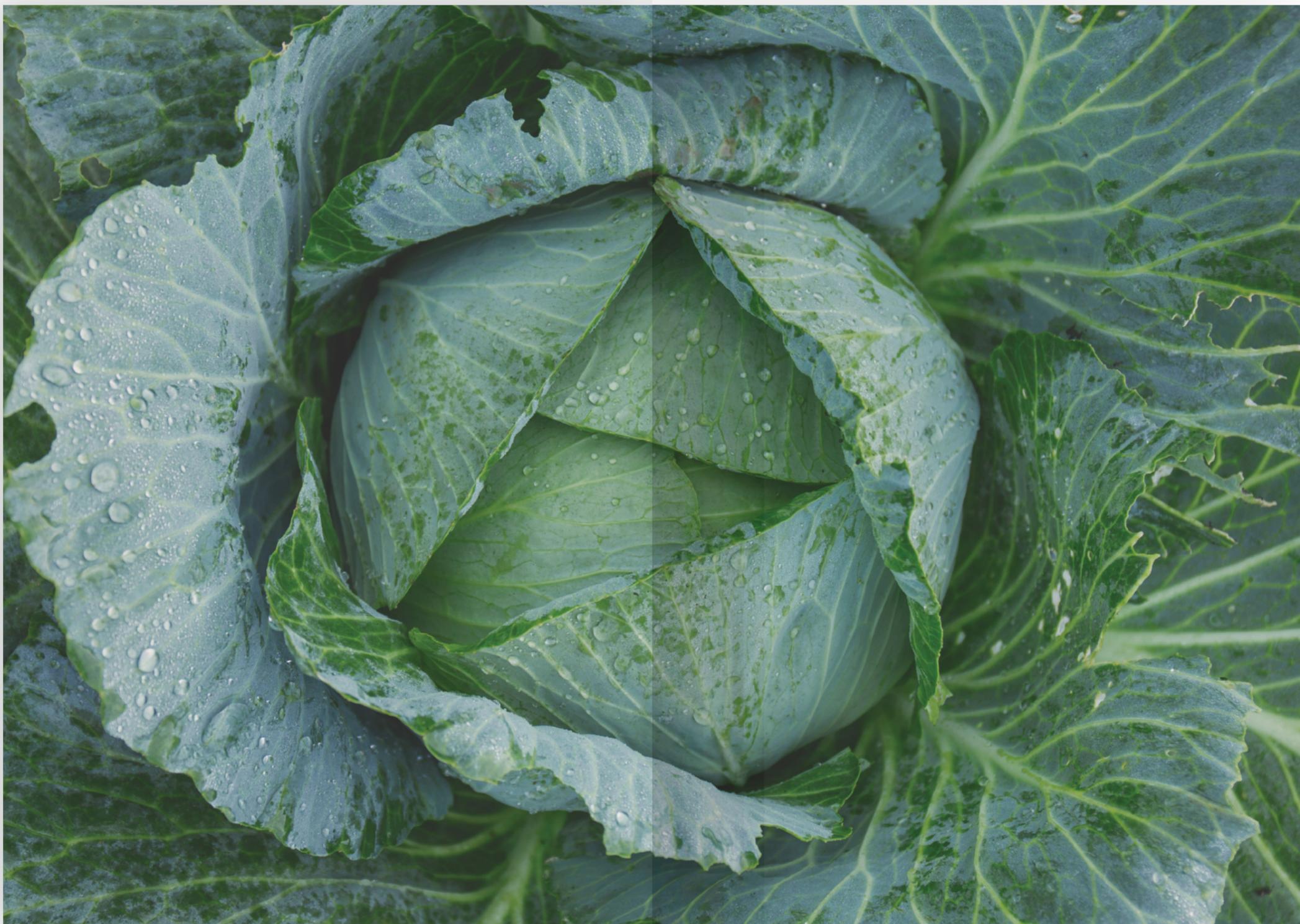
これからますます日本は **IT化** します

これからますます日本は **情報化** します

これからますます日本は **グローバル化** します

つまり複雑になります

高校生と新入学生のための  
食料環境経済学科ガイドブック



高校生と新入学生のための  
食料環境経済学科ガイドブック



複雑で混沌とした社会で求められるのが  
俯瞰して全体を見通し、  
どこに問題があるのか発見できる力

## 俯瞰力

です。



Bird's eye view



高校生と新入学生のための  
食料環境経済学科ガイドブック

高校生と新入学生のための  
食料環境経済学科ガイドブック



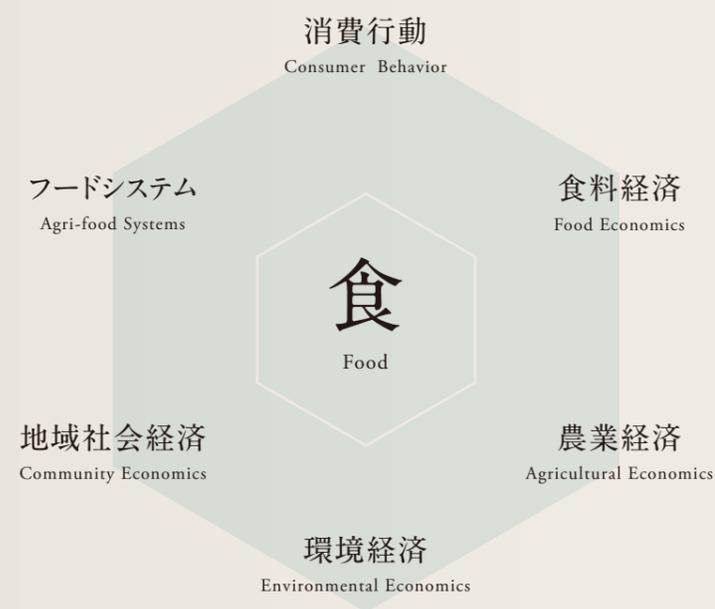
食料環境経済学科では、  
きちんとした専門的な知識を学びながら、  
考える力を身に付け、複雑化した社会でも  
全体を見通せる力を育むことができます。



俯瞰力とは？  
What's Bird's eye view ?

俯瞰力は決して無責任な思い付きではありません。  
専門的な知識と思考力に裏付けされた確かな力です。

さまざまな角度から練り上げられたカリキュラムと  
現場でのリアルな体験を通して

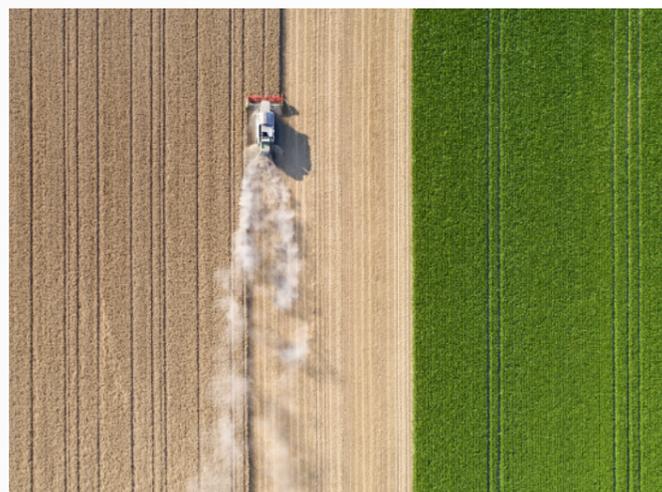


食料環境経済学科  
Department of Food Environment Economics

今後どんな職業にも共通して必要とされる  
俯瞰力を育てていきます。

高校生と新入学生のための  
食料環境経済学科ガイドブック

東京農業大学  
国際食料情報学部



## ようこそ

みなさんは将来どういう職業に就きたいですか。

漠然と食に関わる仕事がいいとか、食品ロスを研究したいとか、日本の農業を本気で改革したいなど、さまざまあるかと思います。

たとえば商品開発をしたい人は、どのようなことを学ぶ必要があるでしょう。

まずは、どういったニーズがマーケットにあるのかきちんと把握する必要があります。加えて開発する商品の原料となる農産物の生産・調達方法や、農家や地域を支援する政策も知ることなど幅広い知識が求められます。

さらに、ただ売ればよいわけではなく、商品の安全、安心はもちろんのこと、食品ロスなど環境面にも配慮しなければいけない時代になりました。

グローバル化が進み、ITやAIなども農業に導入され始め、ますます複雑化する時代には商品を取り巻くさまざまな要因を俯瞰的に見る力が必要となります。

俯瞰して見ることができれば、企画・開発・制作を行うディレクターやマーケティング、6次産業や農商工連携のコーディネーターなどの仕事に就けるかもしれません。あるいは行政で食・農業・環境・地域の政策を提言するプランナーなどへの道も開けます。

食料環境経済学科では、講義、研究室・ゼミ、実学研修及びプロジェクトを通じて、「食」を取り巻く社会・経済システムについての専門知識や思考力を鍛え、世の中を大きく俯瞰して見られる人材を育みます。

## 実学研修 1～3年次

3段階の現場体験で問題意識を育み学習・研究を深めていきます

食料・農業・環境分野の問題解決に取り組む現場を訪問します。  
 視察や体験を通じて、現場の今の姿を学びます。  
 専門的学習に進む前に、各自が問題関心を育む「気づきの場」となります。  
 ゼミの仲間と交流を深める場でもあります。

### ◎実施場所

茨城県  
 長野県  
 静岡県  
 山梨県など

### ◎視察・研修先

農産物直売所  
 ワイナリー  
 スーパーマーケット  
 フードパレ  
 農業法人

観光農園  
 食品メーカー  
 卸売市場  
 農家など



フィールド研修での干し柿づくり(飯田市)

1年次  
 問題解決の現場を  
 視察・体験  
 基礎ゼミ研修(共通演習)

東京農業大学の実学主義を象徴する必修科目の一つが、2年次に実施する実地研修です。  
 1週間、研修地の農家で宿泊しながら、実際に労働を体験し、食料生産や経営、マーケティング、地域経済の実態を目の当たりにすることになります。机上の学習では得られない貴重な経験を積むことができ、学生からも好評なプログラムです。

### ◎実施場所

北海道(真狩村、京極町、余市町)  
 山形県(高島町)  
 新潟県(佐渡市)  
 長野県(飯田市、上田市、中野市、松本市、長和町)  
 茨城県(筑西市、結城郡・八千代町)  
 鹿児島県(南大隅町)など

### ◎研修受け入れ先

果樹  
 有機野菜  
 施設園芸  
 稲作  
 大規模畑作  
 酪農  
 観光農園など

教員の指導の下、国内外の企業や農家、公的機関を共同で調査します。聞き取り調査(=取材)の準備から、取りまとめまでの一連の過程・手続きを体験し、フィールドリサーチの技能を身につけます。  
 卒業論文作成や卒業後にも活かせる調査・報告技能が身につくとともに、視野を大きく広げる様々な知見を得ることができます。

### ◎実施場所

アメリカ合衆国  
 中国  
 韓国  
 台湾  
 北海道  
 沖縄(本島、宮古島、西表島)など

### ◎調査・研修先

食品加工工場  
 農業法人  
 有機農業農家  
 スーパーマーケット  
 環境保全活動組織など

2年次  
 1週間の農家研修  
 フィールド研修



3年次  
 国内外の  
 現地調査研究  
 フィールドリサーチ



## 実学プロジェクト 1～4年次

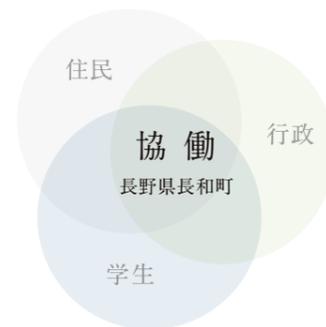
### どこよりも実学が学べる、山村再生プロジェクトとBridge

耕作放棄地と伝統文化の再生を通じた過疎地活性化プロジェクト。  
 学生の“自主的な”参加・活動によって運営されていることが大きな特徴です。  
 毎週の勉強会に加え、月に一度は長野県小県郡長和町を舞台に研修に参加します。  
 学生・地域住民・行政による協働で地域再生・活性化を担う人材育成をめざします。

- 農業体験
  - 遊休荒廃農地の活用
  - 楮、エゴマ栽培
  - キヌア等機能性作物栽培
  - 米、大豆栽培
- 環境保全体験
  - 植林、枝打ち、炭焼き
- 特産品開発
  - 「長和のトマト」の復活生産
  - 機能性雑穀の栽培と商品化
  - 「長和町かるた」の製作
- 企画立案
  - 地域活性化策の検討
  - プレゼンテーション
- 地域交流
  - お祭り等行事への参加
  - 地域の方との意見交換会
- 伝統文化体験
  - 和紙原料の栽培・加工・和紙漉き
  - 郷土料理の調理実習



## 山村再生プロジェクト 実学主義を実践する食料環境経済学科の独自プロジェクト



### 現場から取り組む地域活性化

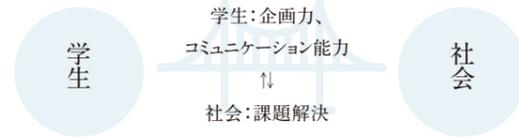
「山村再生プロジェクト」は、本学科が取り組んでいる独自の教育プログラムです。  
 フィールドである長野県小県郡長和町にて毎月1回、2泊3日の実習を実施しています。  
 主な取り組みは以下の通りです。

- 1 遊休荒廃農地の再生、機能性雑穀の栽培
- 2 自然資源の保護
- 3 伝統文化・歴史資源活用
- 4 特産品の開発
- 5 地域交流
- 6 地域再生プランニング

こうした地域活性化のための具体的な取り組みを通じて、地域社会に貢献できる人材を育成することをプロジェクトの目的としています。  
 また、地域住民一人ひとりに向き合い、その人間性にも触れることによって地域に寄り添った活動を展開する、ということも重視しています。  
 本プロジェクトは、長和町の現地指導員、役場職員の方々からも多大な協力を受けています。実習にかかる金銭的支援のみならず、指導の依頼・調整から実習に必要な資材の手配まで、さまざまな支えがあつてはじめて成り立っています。これまで築いてきた良い関係を大切に、「東京農業大学の学生が来てくれて良かった」と思ってもらえるような活動を、これからもめざしていきます。

# Bridge

## 学生 × 社会共創プロジェクト



Bridgeは、学生が社会(企業、行政、地域、農業者、農業団体等)と共に新しい価値を創造しようとするプロジェクトです。学生が自分たちでプロジェクトの案を企画し、学科教員の審査の結果採択されれば、学科が金銭的側面も含めて支援します。学生の自主性を重視し、企画力やコミュニケーション能力などの涵養を図ることを目的としています。また、プロジェクトの成果を出すことで、農村地域や食品業界などにおける課題解決に貢献することを目指します。以下に2020年度の採択事業である5つのプロジェクトを紹介します。



### ◎完熟すもを使った商品開発と販売

Agroad



菅沼農園\_山梨県

「食と農のスペシャリスト」になるべく、農作業、食品開発加工、販売、情報発信を行っています。



### ◎商品開発を通じた特産品ブランディング

ぞっこんlab



国産株式会社\_埼玉県

特産品の発掘から商品の開発、販路の開拓、商品の宣伝まで、全てに全力で取り組むプロジェクトです。



### ◎地域農産物のプロモーション映像作成、SNSを活用した販路開拓

もぐもぐProject



松村栄一農園\_長野県

「生産者と消費者の懸け橋になる」という理念を掲げて、商品開発から地域のお祭り参加、映像作成まで幅広く活動しています。



### ◎地域の未利用資源を活用した布製品の開発

赤かぶ染めプロジェクト



木曾町役場\_長野県  
豊島株式会社\_愛知県

赤かぶをはじめとした地域の未利用資源を活用して商品開発を行うことで、地域の活性化を目指すプロジェクトです。

### ◎地域の農産物を使った商品の開発・販売

みちのく太陽プロジェクト



北上市農林部  
農業振興課\_岩手県

地域の農産物を使った特産品開発・販売を通して、北上市という農村都市の活性化・認知度向上を目指すプロジェクトです。

### ◎対象プロジェクト例

- ・食品や農産物の商品開発・マーケティング
- ・農山村の集落支援活動
- ・援農・ワーキングホリデー
- ・農地保全活動
- ・フードバンク
- ・子ども食堂
- ・環境保全活動

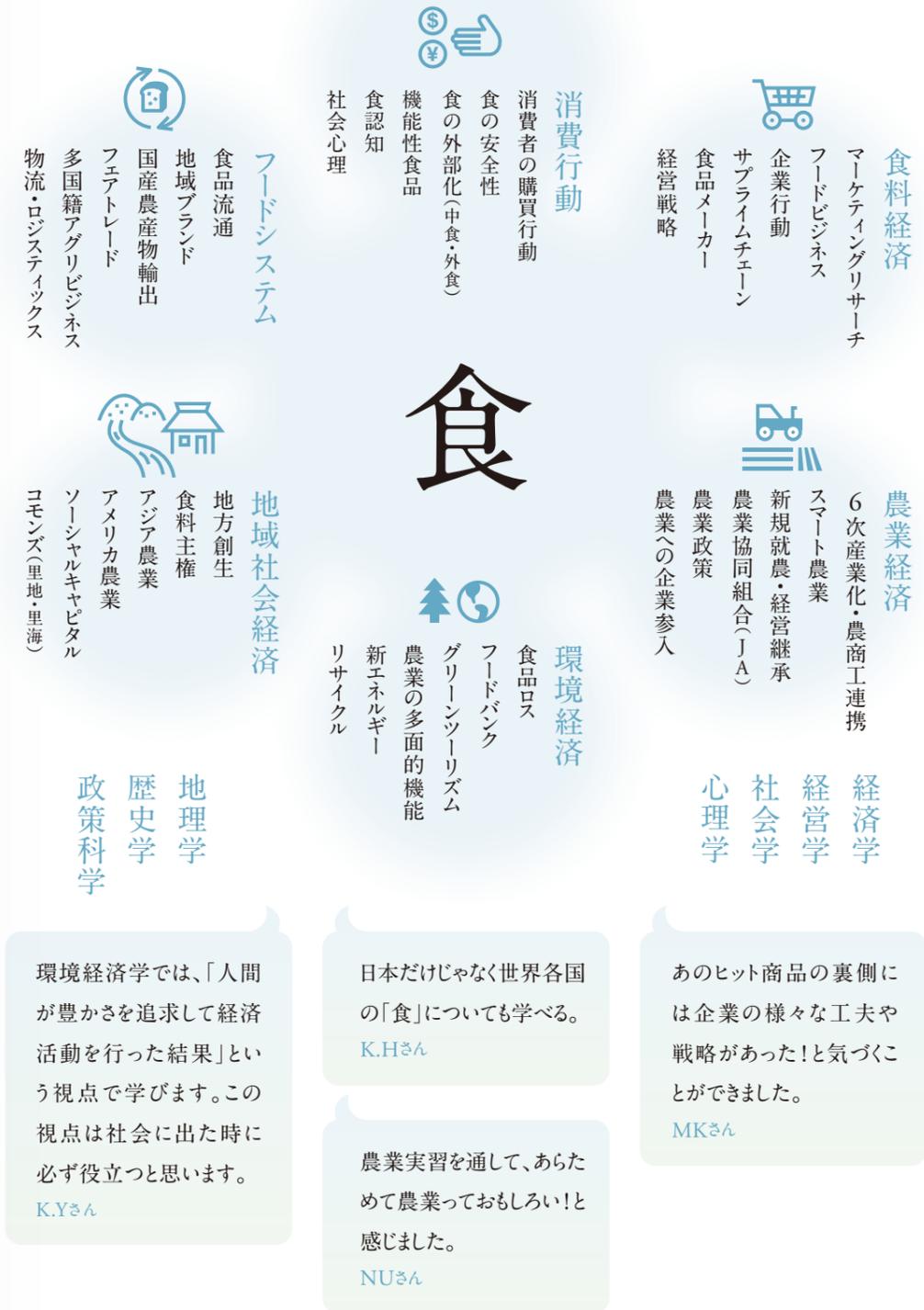
#### プロジェクト条件

- 実施者は、食料環境経済学科の学部学生2名以上であること。(参加は、他学科学生・大学院生も可)
- 1 学外の第三者(企業、役所、NPO・社団法人などの団体、農村の集落組織、農家グループなど)と共同で行う。
  - 2 年度始め(4月)に、研究室相談会などで参加希望の学生を広く募る。
  - 3 年度末(3月)に、報告書(写真なども含む)を提出する。

カリキュラム 主な講義・学びの領域

	環境	農業	食料	理論教養	
教養・基礎	環境経済史 経済地理学	農業経済学	グローバル経済論	1年 ミクロ経済学(一)(二) 経済学入門 経営学入門 英語(一)(二)	
	環境経済学 環境政策論 環境社会学 資源経済学	農業経営学 国際農業経済論 アメリカ・EU農業経済論 農業政策論	食料経済学 食品マーケティング論 国際フードシステム論	2年 マクロ経済学 公共経済学 企業と会計 TOEIC英語(一)(二) 英語(三)(四) キャリアデザイン	
専門・応用	環境経済評価 新エネルギー論 地域計画論	農村政策論 協同組合論 農業思想論 アジア農業経済論	食料政策論 農産物市場論 食品産業論 農業貿易論	3年 計量経済学 社会調査 経済統計論 金融論 英会話(一)(二) インターンシップ	
				4年 卒業論文	

食を俯瞰するために学ぶ領域・テーマ



## ゼミ・研究室活動

### 少人数での高度な専門教育

1年

2年

3年

4年

#### 基礎ゼミ 1~2年 全員(学籍番号順)

##### ◎主な活動内容

文献の検索方法  
発表の基礎能力向上  
基礎ゼミ研修  
フィールド研修

##### ◎教員 1名

##### ◎学生 20名程度(同学年)

#### 「研究室配属」「卒論ゼミ」の決定まで

##### ◎2年後期

テーマなどから  
志望する  
研究室を選択

##### ◎3年前期

定員・志望動機・  
成績等から研究室  
および卒論ゼミに配属

## 研究室

#### 学生研究室活動 1~4年 志望者・定員あり

業界・現場との接点を深め、より高度な  
専門知識を修得する6つの研究室

##### ◎主な活動内容

共同研究  
(テーマ決定、調査、データ収集、分析、発表資料作成)  
収穫祭(文化学術展)での研究成果発表  
論文執筆

##### ◎教員 2~3名

##### ◎学生 15~50名程度(1~4年生)

※学年ごとに定員があります。

#### 卒論ゼミ 3~4年 全員(志望・選考)

興味あるテーマをより深く追究する

##### ◎主な活動内容

研究の進め方  
調査・データ分析手法  
報告資料の作り方  
論文作成方法  
卒論作成  
成果発表とディスカッション

##### ◎教員 1名

##### ◎学生 15名程度(同学年)

消費行動研究室 P.14

食料経済研究室 P.15

フードシステム研究室 P.16

農業経済研究室 P.17

地域社会経済研究室 P.18

環境経済研究室 P.19

#### 基礎ゼミ 1~2年次

基礎ゼミは、入学時に割り当てられる名簿の学籍番号順にゼミ担当が決められており、2年次まで同じゼミで演習科目を受けることとなります。まず、ここで食料・農業・環境分野の現状や課題などの基礎を学びます。また、少人数制を活かしたプレゼンテーションやグループディスカッションなどを行い、大学での勉強・研究に必要な基本的な能力を養成します。

この基礎ゼミで実施する1年の基礎ゼミ研修や2年のフィールド研修により、問題の解決に取り組んでいる現場に足を踏み入れ、現場の今の姿を学びます。専門的学習に進む前に、各自が問題関心を育む「気づきの場」となります。

#### 卒論ゼミ 3~4年次

3年次から研究室を選択し、卒業年次までの演習科目をその研究室の卒論ゼミで受講します。

専門的な知識とともに、論文の作成方法を学び、卒論を作成します。

卒論ゼミを通して、基礎的な文献や資料を収集したり、先行研究などを検索したりしながら課題を具体化し、3年次の最後には「卒業論文中間報告」を提出します。

4年次では、調査・データ分析・執筆を進め、卒論ゼミの教員の指導のもと、卒論を作成します。

#### 学生研究室活動 1~4年次

学生研究室活動では、各地の視察や食料・環境・農業に関する調査・分析などを行っています。そして秋の収穫祭(大学祭)では、文化学術展において、その研究成果を発表しています。研究室によっては、日頃お世話になっている農村地域の特産物を販売する即売店を開いています。

参加するには、研究意欲と責任感を持っていることが第一条件です。1~4年次までの学生と複数の教員により共同研究を進めることで、調査や分析手法等の専門的な能力を身につけます。1人では行かない、現地調査やデータ収集、分析ができます。また、共同研究や学科行事への参加を通じて、学年を超えた交流が行われます。



## 研究室紹介

専門を追求する6つの研究室

消費者データから食の消費を科学する  
消費行動研究室

「なぜその食品を消費するのか」、「その食品を消費することによって社会にどのような影響をもたらすのか」、そして、「消費者を幸せにする食品とは何か」。私たちの研究室では、消費者行動論やマーケティング論、経済学を中心に、社会心理学、認知科学などの他の学問分野からの知見も活用し、これらの課題解決に取り組んでいます。具体的には、企業やJA(農協)による商品開発の現場に密着したインタビュー調査、消費者を対象としたアンケート調査や購買行動実験、スーパーや直売所での店頭観察調査などの様々なデータの分析を通して、食に関する消費行動を明らかにしていくとともに、新商品開発や新サービスの提案までを手掛けていきます。



大浦裕二 教授  
食品マーケティングと消費者行動に関する研究



藤森裕美 准教授  
行動経済学を用いた消費者政策と食品に関する研究



菊島良介 助教  
食料生産と消費の適切なつながり方に関する経済学的研究

### ◎研究テーマ

農産物直売所における青果物コーナーの新提案  
企業やJA(農協)との連携による新商品開発  
若者の食行動に関する研究  
インターネットショッピングの利用動向に関する研究



食料経済と食品産業を多面的にデザインする  
食料経済研究室

食料経済および食品産業は、我々の食生活を支えると同時に、経済全体の中でも重要な部分を占めています。その理解には、食品産業のサプライチェーン全体を捉えた構造分析、およびアクターである食品企業のマーケティング等の企業行動分析が欠かせません。本研究室では、食品貿易や産業間の経済的連携に関する統計データ解析、流通過程についてのシミュレーションとゲーミング、企業や消費者へのフィールド調査、システム・デザイン思考による新しいアイデアの創出、など様々なアプローチによりこの領域の研究・教育を行い、食品企業で活躍できる有為な人材の育成を目標にしています。



金田憲和 教授  
国際貿易と資源問題、食料品の国際貿易



佐藤みずほ 准教授  
持続可能なフードサプライチェーンマネジメントに関する研究

### ◎研究テーマ

食料経済の統計解析と国内外のフィールド調査  
食品廃棄低減化のためのサプライチェーンゲームの開発と検証  
システム・デザイン思考による消費者インサイト発見と新しい食のデザイン  
簡単なIOTデバイスの食品産業への応用



農場から食卓まで、一体的にとらえて農業や食品産業の真実に迫る  
フードシステム研究室

私たちの暮らしになくてはならない安全・安心で美味しい食べ物が、いつでも誰もが得られるには何が大切か。それを考えるためには、食料の生産、加工、流通、消費に至る一連の流れを「フードシステム」として体系的に理解する必要があります。そのなかでフードビジネスは、商品開発やマーケティング活動を行うことで利益を大きくしようとしますが、貿易の自由化などで競争が激しくなり、食品の品質や食の安全性が脅かされています。本研究室では、国内外の農産物産地、食品メーカー、流通企業、消費者等を対象として実態調査を行い、問題を一体的にとらえることで、その背後にある真実に深く切り込んでいきます。研究室活動を通じて食品業界に対する知識や理解を深め、社会に出てからの実践力を身につけます。



高柳長直 教授  
グローバル経済下における農産物産地・地域産業の発展



野口敬夫 准教授  
農業貿易の自由化とフード・バリューチェーンの構造に関する研究



中窪啓介 助教  
新自由主義下のフードシステムと農業経営の展開に関する研究

◎研究テーマ

- 貿易自由化による日本の農産物輸入の影響と輸出の展開
- フードシステムの革新と食品企業行動
- 地理的表示の消費者認知と地域ブランド戦略の課題
- 卸売市場の再編と食品流通の変化



幸せな食を創る「農業」の価値・人・カタチを考える  
農業経済研究室

「農業」は食料供給の要です。本研究室では主に次のテーマに取り組みます。  
① 農業生産を中心に6次産業化、農商工連携といった視点から、付加価値を生み出す農業システムを考えます。  
② 新規就農や経営継承、企業参入といった視点から新しい農業を創っていく人材の育成、マネジメントについて考えます。  
③ 農協や集落営農、地域住民など地域農業に関わる主体の役割について分析し、農村や地域農業が発展するための政策や計画を考えます。  
これらのテーマから、消費者だけでなく生産者も幸せにする食を創造します。



堀田和彦 教授  
農商工連携、6次産業化による地域活性化の方法に関する研究



堀部 篤 教授  
新規就農・農業政策・地域ガバナンスに関する研究



竹内重吉 准教授  
地域経済社会の持続的発展を可能とする農業システムの構築と地域計画

◎研究テーマ

- 農産物直売所を基軸とした6次産業化による地域活性化
- 規制緩和による企業参入の推進は中山間地域を救うか？
- 生産部会の共選共販体制におけるインセンティブ設計
- 有機農業に取り組む新規就農者の類型化と社会的ニーズへの対応



食と農の現場に赴き、私たちの食と地域のこれからを考える  
地域社会経済研究室

私たちの食の源をつくる農林漁業の現場は、今どうなっているでしょう。本研究室は、国内や海外のフィールドに赴き、地域の生産や暮らしを肌で感じ、地域の人々対話しながら学ぶことを重視します。そこには素晴らしい出会いとたくさんの発見があります。人口減少や産業の衰退に悩みながらも、地域の自然環境を守り、地域の資源や知恵、伝統を生かし良いものを作ろうとする創意工夫。それを都市の消費者とつながりながら伝えていこうとする取り組み。経済のグローバル化により私たち消費者の食生活が変化すると同時に、食を支える現場も大きく変わっています。その変化と地域の取り組みを直接現場で学びながら「現場に強い」人材を目指そう。



菅沼圭輔 教授  
中国を中心としたアジア地域の農業・農村開発の問題



吉野馨子 教授  
国内や「第三世界」における農村漁村の生業(仕事)とくらし、地域資源の在地の知を生かした環境共生的な社会の構築



高梨子文恵 准教授  
東南アジア地域の農業と地域社会経済に関する研究

◎研究テーマ

- 地域資源(食、技、文化、景観等)を生かした地域活性化の方策
- 高齢化、人口減少社会における地域コミュニティのあり方
- アジアの食料需給と農業・食品産業
- アジアの農業・農村開発の課題



資源・環境の評価・保全を経済学で考える  
環境経済研究室

資源問題・環境問題は現代社会の最も重要な問題の一つです。その内容は、地球温暖化のような世界規模の問題から食品ロスの削減やリサイクルのような身近なものまで多様です。また、農業・農村の生物多様性保全機能やレクリエーション機能など、高く評価されながら価格付けがなされていない環境の存在も重要です。当研究室では、こうした幅広い分野にアプローチし、食資源の有効利用や環境保全の重要性を明らかにすることにより、有効な資源・環境保全政策に資する研究を行うことを目的としています。



寺内光宏 教授  
循環型社会経済システムの構築に関する研究



田中裕人 教授  
農業・農村の多面的機能についての経済評価に関する研究



野々村真希 助教  
食品ロスおよび消費者の行動に関する研究

◎研究テーマ

- 農業生産段階における食品ロス発生の要因解析
- 離島における産業発展——沖縄県伊江島のサトウキビ産業を例に
- 沖縄県におけるサンゴ礁の経済的価値——保全に対する人々の意識
- 白神山地と地域住民——価値の認識と教育



## 卒業生にインタビューしてみました

### 高石健次郎さん

Takaishi Kenjiro

2014年3月卒業

国分グループ本社株式会社  
フードサービス事業部 給食営業二課 営業



食料環境経済学科で学んだことがあったら教えてください。

私は大学生時代、食料経済研究室に在籍し「食」を利用した地域活性化、主に六次産業化について研究しておりました。活動内容としては地域活性化の様々な事例の現地に訪れ、携わった方々に直接話を聞くことで、地域活性化の成功要因を自分たちなりに分析しておりました。その中で最も印象的だったのが埼玉県秩父市のお菓子な郷推進協議会の取り組みです。秩父市は紅葉が綺麗なことで有名な町ですが、推進協議会は特にカエデに着目し、カエデから国産メープルシロップを作り、これをお菓자에転用しました。この取り組みによって秩父市のブランド力を高め、新たな雇用を生み出し地域活性化に繋がったという事例です。私はこの活動に感銘を受け、将来こういった商品を発掘して、より多くの人に食べてもらいたいという気持ちが芽生えたことから、今働いている企業への入社を強く希望しました。

普段はどのような仕事をされていますか？

私は国分グループ本社株式会社に勤めております。国分グループは1712年創業の約300年の歴史のある「食品卸売業者」です。食品卸売業とは生産者(メーカーなど)や輸入業者から商品を仕入れ、小売業者(スーパーや百貨店)などにその商品を売り渡す役割を担う業種です。生産者と小売業者のパイプ役となり需給の安定、価格の決定、金融の円滑化などの役割を果たしております。得意先は全体合わせて3万5,000件、取り扱いアイテムは60万アイテムにも及びます。

その中で私は業務用の食材・商品を専門とするフードサービス事業部という部署に属しており介護施設や老人ホーム、学校給食、社員食堂等の産業給食に対し、営業マンとして食材及びメニューの提案、それに伴う食材の供給を行っております。

国分グループという会社を知ったきっかけも大学時代の授業内容です。研究室での活動を通して志した思いが今果たしていることを非常に嬉しく思っています。

受験生にメッセージはありますか？

東京農業大学では「食」にまつわる専門分野を深く学ぶことが出来るとてもいい環境です。だからこそ学びたいことは何か、少しでも興味があるものは何か、の先が「食」であればぜひ東京農業大学を志望していただければと思います。

### 秋山翔平さん

Akiyama Shouhei

2017年3月卒業

全国農業協同組合連合会(全農)



食料環境経済学科で学んだことがあったら教えてください。

2年次から所属する農業経済研究室での研究室活動です。年度ごとに研究テーマを設定し、研究のために、アンケート調査や現場調査を行ってきました。活動を通じて実際の農業の現場を知れたことや、論文作成方法が身に付き、卒論作成時にもこのスキルは役に立ちました。

卒論はどんな内容でしたか？

日本は農産物の市場開放を迫られ、より一層、農業の競争力強化が求められています。こうしたなか、農産物の生産だけでなく加工・販売を行うことで付加価値を高める6次産業化の取り組みが推進されています。特に、6次産業化をビジネスチャンスとみた民間金融機関は、金融支援の活動を積極的に行っています。従来、農業経営体が受けられる金融機関のサービスは政府系金融機関の制度資金か農業協同組合からの融資及び販売等支援がほとんどでした。

そのようななか、民間金融機関から多様なサービスが提供されることは、6次産業化を考える農業経営者にとって歓迎すべき状況です。

そこで卒業論文では、民間金融機関の農業金融サービスの状況を把握したうえで、総合化事業化計画認定された6次産業化経営体にアンケート分析を行い、多様化される金融ニーズや金融機関選択の変化を検討しました。

民間金融機関の中でも特に地方銀行が6次産業化の金融ニーズに応える金融機関だと期待されています。6次産業化により経営が多角化され、他産業との連携が必要となるなか、地方銀行は地域の豊富な顧客ネットワークを生かした連携やビジネスマッチング等、農家に対して多様な経営支援を行うことができます。6次産業化における金融ニーズは、これまでの農業分野での金融ニーズとは異なるため、卒論では民間金融機関が6次産業化専門の事業を立ち上げ、経営支援等の金融ニーズに応じていく必要があると結論付けました。

将来の目標はありますか？

私は大学生活を通して、食と農の重要性を学ぶと共に食や農を支える役割を担いたいと考えようになりました。全農は農業に関わるすべての事業を行っています。農業構造が大きく変わろうとしている今こそ、変化の最前線で生産者をトータルにサポートしていきたいです。

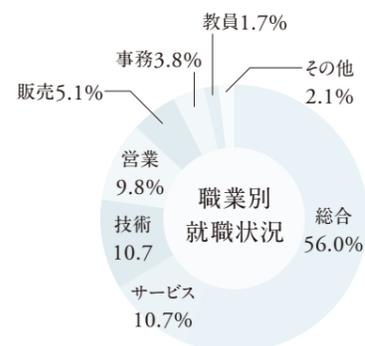
## 卒業後の多彩な進路

### 社会から寄せられる熱い期待と学科一丸体制の支援対策

食品メーカー、食品流通・外食産業、農協等の農業団体、農業生産法人、公務員、教員など、専門を活かした分野に実績があります。また、金融、商社など、一般的な業種に就職する人もいます。

#### ◎卒業生の主な就職先

農業・林業	サカタのタネ、カネコ種苗、鶴田農園ほか
製造業	昭和産業、伊藤園、J-オイルミルズ、白鶴酒造、山崎製パン、UCC上島珈琲、雪印メグミルク、敷島製パン、日本食研ホールディングス、東ハト、ハウス食品、日立キャピタル、日本アイ・ビー・エム・ビズインテック、ピクルスコーポレーション、メリーチョコレートカムパニーほか
情報通信業	AMOC PTE.LTD、富士通エフ・アイ・ビー、トム通信工業ほか
運輸業	JALスカイ、小田急電鉄、東京地下鉄、箱根登山鉄道ほか
卸売業・小売業	旭食品、リコージャパン、アルフレッサ、日本アクセス、三越伊勢丹ホールディングス、日比谷花壇、コーチ・ジャパン、群馬ヤクルト販売、横浜冷凍ほか
金融・保険業	三井住友銀行、明治安田生命保険、大和証券、SMBC信託銀行、常陽銀行、みずほフィナンシャルグループ、スルガ銀行、水戸証券、ジャパンネット銀行、城南信用金庫ほか
不動産業	住友不動産、住友林業ホームサービス、三井不動産ファシリティーズほか
サービス業	パナソニックシステムソリューションズジャパン、ぐるなび、コナミグループ、インテリジェンス、船井総合研究所、いるま野農業協同組合、日本郵便、全国農業協同組合連合会、ながの農業協同組合、全国酪農業協同組合連合会ほか
教育・学習支援業	中学校教員、高等学校教員、県教育委員会ほか
公務員	防衛省、陸上自衛隊、東京消防庁、警視庁、海上保安庁、埼玉県警察本部、静岡県警察本部、区・市役所ほか



## 就職実績

## サポート 就職

きめ細やかな指導で満足度の高い就職を実現！  
学科独自の就職支援対策を早期から実施しています。  
食料環境経済学科ならではの就職動向に対応しており、  
毎年、満足度の高い就職実績につながっています。

#### 就職活動体験記

食料環境経済学科卒業生たちの就職活動をまとめた体験記を毎年発行しています。就職情報の収集方法、求人や就職試験、面接の実態など、先輩たちの実体験が詳しくつづられています。食料環境経済学科ならではの就職動向、就職活動の特徴・ポイントなども理解でき、自分たちの就職活動に大きく役立てることができます。

#### 1年生対象の職能支援講座

入学直後から就職支援対策に取り組むことが特徴です。そのひとつが、1年次のフレッシュマンセミナーで実施する職能支援講座です。特に、就職試験に欠かせない時事問題の基礎知識を養うことに力を入れています。また、将来の就職に向けて、進路に関する意識づけ、動機づけも行っています。

#### 3年生対象の実践的プログラム

就職活動のスタートに先駆け、より実践的な内容のプログラムを学科独自に実施しています。全学の就職講座の開始に先立った7月のガイダンスでは、就職活動体験記の配付と説明、学科就職講座の予告、就職活動への意識づけなどを行います。同時に、志望する業界、支援対策に関する要望を調査し、以後の指導に役立てています。

#### 資格取得の支援

各種の資格取得に必要な講義・講習・実習を用意しています。資格は、社会に実力を証明する武器であり、専門的な技能を生かして進路を広げることにもつながります。ここに挙げた資格以外にも、自主的に勉強して、情報処理関係の資格を取得する学生もいます。

また、本学科では専門領域と関連する資格として、農業技術検定、販売士、フードアナリストを推奨しております。フードアナリストについては、日本フードアナリスト協会と提携し、3級・4級資格の東京農業大学学生・特別講座を実施しています。

#### 取得できる資格

高等学校教諭一種免許状(地理歴史・公民・農業)、  
中学校教諭一種免許状(社会)、司書、学芸員

#### 多彩な就職支援対策

本学のキャリアセンターと連携することで、多様な就職支援対策を実施しています。

- ・学内企業説明会
- ・教員と全学「企業セミナー」参加企業の人事担当者と懇談・名刺交換
- ・各種の就職情報・企業情報等の収集
- ・求人情報の提示・連絡ほか

ゼミなどで行った農業実習やフィールド研修などの経験は面接に役立ちました。ほかの大学生がなかなかできない体験をしているというのは、大きなアピールポイントになると思います。

就職先：  
世田谷区役所 T.Mさん

研究室活動でマネジメント力を身に付けることができ、就活でアピールできました。

就職先：敷島製パン Y.Kさん

研究室活動では、論文を作り上げる過程が小論文を書く際に役立ちました。

就職先：沼津市役所 M.Tさん

食品業界に的を絞って就活していたので、大学の授業で学習したことが生かされました。1年生から学んだことを復習して、さまざまな知識を得てから就職活動に取り組んだ方がいいと思います。

就職先：ヤマダイ食品 I.Yさん

# 大学院

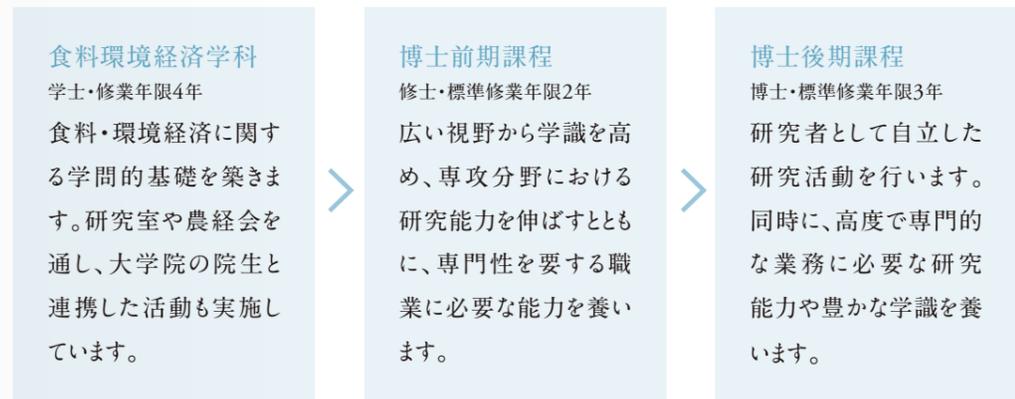
## さらに深く、高度な研究へ

卒業後の進路は、就職だけではありません。  
 さらに深く、高度な研究をめざし、大学院に進学する道もあります。  
 食料環境経済学科の場合、大学院志望者の多くは  
 農学研究科**農業経済学専攻**に進んでいます。  
 また、学内からの進学者への奨学金が拡充され、  
 入学金や授業料が大幅に減額または免除されています。

### 高度な教育を通じて 優れた研究者・専門家を育成

食料の生産・流通・消費について、応用経済学の視点をもとに  
 総合的に分析。また、環境問題や農業が持つ  
 環境保全機能について、経済面や国際的視点からの  
 学際的な研究も進めています。個別指導を中心に、  
 情報処理、企画立案、実態調査の能力を養うなど、  
 高度な専門教育を通じて、優れた研究者、専門家の育成を  
 めざしています。進学者の中には、本学の教員となる者もいます。

## 段階的に専門的な能力を高めていきます



◎ 研究分野  
 農業経済学分野  
 農政学分野  
 食料経済学分野  
 ◎ 課程  
 博士前期課程  
 博士後期課程

## 農業経済学専攻

### ◎大学院修了者の主な進路

JC総研	弘前大学	桃山学院大学
農林中金総合研究所	愛媛大学	東京都庁
中央畜産会	追手門学院大学	群馬県・茨城県(教員)
JR東日本	東洋大学	農業経営者(自営業)
東京農業大学	大東文化大学	ほか

## 大学院〈学内進学者〉への支援

東京農業大学では、創立125周年記念事業として、平成28年度より大学院奨学金制度を改正し、大学院進学を希望する皆さんを応援しています。

博士前期課程・修士課程には授業料と整備拡充費が半額となり、1年目は国公立大学よりも学費の負担が少なくなります。  
 さらに本学の学部から博士前期課程・修士課程を経て博士後期課程まで進めば「学びで後足らざるを知る奨学生」により、入学金、授業料、整備拡充費の全額が免除となります。

大学院〈学内進学者〉  
 大学院奨学金  
 授業料半額

<b>第一種奨学生</b>	<p>対象者：博士前期課程・修士課程および博士後期課程入学者のうち該当者全員          減免額：授業料の1/2および整備拡充費の1/2相当額</p>
<b>第二種奨学生</b>	<p>対象者：東京農大工学部卒業生全員          減免額：入学金相当額</p>
<b>第三種奨学生</b>	<p>対象者：博士前期課程および修士課程の私費外国人留学生で東京農大工学部に4年以上在学し、卒業した者、または海外協定校を卒業した者(定員は各専攻の入学定員の半数)          減免額：入学金、授業料および整備拡充費の全額相当額</p>
<b>学び後足らざるを知る (学後知不足) 奨学生</b>	<p>対象者：博士後期課程入学者のうち、東京農大工学部に4年以上在学して卒業し、かつ大学院博士前期課程・修士課程を修了した者のうち該当者全員          減免額：入学金、授業料、整備拡充費の全額相当額</p>

## 食料環境経済学科ならではの支援組織

### 農経会

農経会は、会員相互の親睦と生活の充実を図ることを目的に、本学科の学生・大学院生・教員で組織されています。イメージとしては、高校の生徒会のような組織です。本会の主な活動は、初代学長横井時敬博士の墓参会、環境美化活動、講演会、卒業論文や研究室の研究発表会、学科交流会、各ゼミナールや研究室間のスポーツ対抗試合、大学全体で実施する学内スポーツ大会や収穫祭への参加と助成、本会の機関誌である『農経會誌』(年1回)の発行などです。農経会の実際の運営は、学生から選出された学生役員が中心となって行われています。また、ゼミや研究室などから選出された代議員によって構成される代議員会において、会の事業や会計が審議・承認されます。



### 食料環境経済学科統一本部

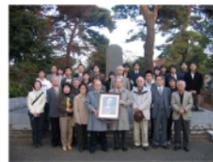
本学には、「学生相互の親睦と学生生活全般の充実を図り、あわせて大学発展の実を挙げる」という目的のもと、全学生・全職員を会員とする全学組織として「農友会」があります。農友会は、部活動や行事などの課外活動を組織するとともに、本学最大のイベントである収穫祭やスポーツ大会等の行事を運営しています。そして、各学科を代表してこれら行事の企画・運営を担っているのが統一本部という組織です。この組織は本学の全ての学科に設けられています。本学科の組織は、「食料環境経済学科統一本部」です。本学科の全ての行事について、農経会と学科統一本部とが協力して運営を行っています。



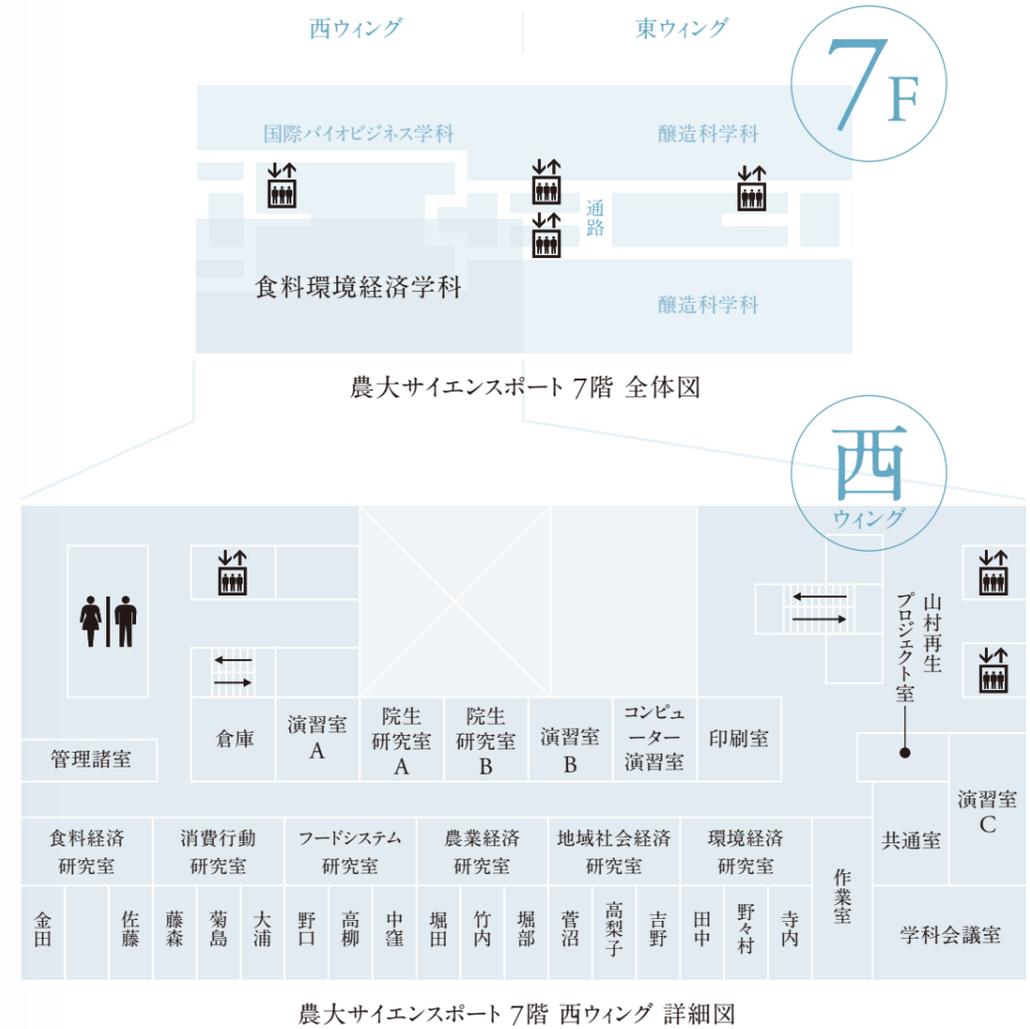
## 食料環境経済学科の歩み

26

1938 (昭和13年)	6月	農業経済研究室完成
	12月	農業経済学科設置認可、定員120名
		昭和20年まで東京農業大学は渋谷区常盤松にあった
1939 (昭和14年)	4月	農業経済学科開講
		農経会発足
		『農経會々誌』(現:『農経會誌』)創刊号発行
1953 (昭和28年)	3月	大学院農学研究科農業経済学専攻修士課程設置認可
1962 (昭和37年)	3月	大学院農学研究科農業経済学専攻博士課程設置認可
		農家実地研修(現在のフィールド研修)の制度化
1967 (昭和42年)		研究室体制の確立
1989 (平成元年)	5月	学科創設50周年記念式典の開催
1991 (平成3年)	5月	東京農業大学創設100周年記念式典の開催
1998 (平成10年)	4月	国際食料情報学部食料環境経済学科発足
2008 (平成20年)	10月	食料環境経済学科の「山村再生プロジェクト」、文部科学省の「質の高い大学教育推進プログラム(教育GP)」に採択
2009 (平成21年)	2月	学科創設70周年記念事業・祝賀会開催
2016 (平成28年)	3月	食料環境経済学科が2号館から13、18号館に移転
2019 (令和元年)	10月	学科創設80周年記念事業・祝賀会開催
2020 (令和2年)	4月	食料環境経済学科が農大サイエンスポートに移転



## 研究室・演習室等案内図 世田谷キャンパス 農大サイエンスポート 7階



学生に対する連絡は、掲示やEメール、ポータルサイトによって行っています。掲示を見落としたために不都合が生じることのないように、登下校の際には、必ず掲示板を見る習慣をつけてください。ゼミや研究室活動で、火災、病人の発生等の緊急事態を発見した時は、学部事務室へ連絡してください。事務室が閉まっている時間帯には、近くの教員または自分の所属しているゼミ・研究室の教員に連絡してください。教職員が学内の対応部署への連絡を支援します。

農大サイエンスポート 6階 国際食料情報学部事務室 TEL 03-5477-2918